

国際開発協力論Ⅱにおいても、国際開発協力論Ⅰと同様に、筆記試験は実施せず、主に3つの小レポートの内容を踏まえて成績評価を行った。レポートはいずれも、教員が提示した「問い」について、授業内容を踏まえて、履修者の考えを2,400字程度で論述するものであった。スケジュールとテーマ、点数配分は以下の通りである。

課題番号	課題提示日	テーマ	題材 (関連する授業回のレジュメ・配布資料・解説動画に加えて)	締切	点数配分
1	10/31	外部者が途上国に介入する際に求められる視点について、各自の考えをまとめる	DVD（制作会社が動画をYouTube上に公開） 教員が用意したDVDの内容についての解説動画	11/28	31点
2	12/5	市民社会支援を如何に評価すべきなのかについて、各自の考えをまとめる	DVD（制作会社が動画をYouTube上に公開） 教員が用意したDVDの内容についての解説動画	1/9	31点
3	12/19 (*)	全13回分の授業の内容を踏まえ、ガバナンス支援の基礎となっている考え方について、各自の考えをまとめる	学術論文	2/3	33点

* 第13回授業が1月9日であることを踏まえ、受講生が冬休みを有効活用できるよう、早めに課題を提示

3つの小レポートに加えて、全13回の授業を通じて、特に興味を持ったこと・新たに学んだことについて、200字程度でコメントを用意し、第3回課題レポートと合わせて提出するよう求めた。こちらについては、条件に合致する形で提出する限りにおいて、5点を必ず付与した。

各レポートの質問の趣旨や、その質問に答えるために求められる知見については、レポート課題を提示した授業回（予習・復習用の解説動画の内容を含む、以下同じ）およびレポートの題材となる英語の動画について日本語で補足した解説動画において十分に説明してあるので、ここで改めて説明することはしない。換言すれば、授業に出席し、指示に従って予習・復習をこなせば、出題の趣旨に即したレポートが執筆できるようになっている。

また、受講生が、正しく出題意図を理解し、授業で学んだ内容を適切に援用してレポートを用意できたかどうかを確認できるよう、希望者には、Zoomを用いる形で、提出期限後にフィードバックを与えることとした。2024年度は希望者はいなかったが、このような、自分の理解度を確認できる機会を是非活用してほしい。

第1回課題レポートと、第2回課題レポートの第1問については、各設問に於いて要求された各点に沿った形で、題材となる動画および該当する授業回から入手できる情報を、的確に整理できているものが多かった。但し、第2回課題レポートの第2問でとりあげた「ポスト開発」の議論や、第3問で取り上げた「現地への配慮」が孕む問題については、不十分な分析にとどまったものが散

見された。第 3 回課題レポートについては、該当する授業回から入手できる情報を考慮することなく、指定した学術論文の内容のみに基づいて書かれたものが多く見られた。成績評価の一環として課題文献を指定した形でレポートを課すには理由があり、授業内容を踏まえた上で課題レポートに取り組む必要性を改めて指摘しておきたい。また、授業において示された見解が、必ずしも題材として指定した論文と同様の見解に基づいているとは限らないことに注意されたい。両者の見解を理解し、必要に応じて比較した上で、受講生の考えを述べることが求められる。この点は、授業時に注意喚起の意味を込めて説明しておいたため、授業内容に言及できていない答案の評価に対するペナルティーも大きくなった。

なお、受講者自身が「依拠すべき立場」や、「議論の一貫性」についての注意事項は、国際開発協力論 I の講評を参考にされたい。指定された文字数を無駄なく使い、必要十分な情報を提供する必要性や、「問われていること」に答える必要性などについても同様である。

授業のコメントについては、どのような内容に受講生が関心を持ったのかが率直に書かれており、教員としても興味深く読んだ。